

→おもて面から ＜地震関連＞ ① 地震後の授業量が気になります。課外授業の必要はありませんか。 （回答）指導課 授業時数の確保のために、夏季休業日を6日間短縮しました。また、それぞれの学校の実態に応じて、行事の精選や縮小、6時間や7時間授業の実施、土曜授業の実施等、工夫して計画的に取り組んでいるところです。12月までに、ほとんどの学校が授業時数の回復が図れるよう取り組んでおります。 3 健やかな体の育成に関して（健康づくり・体育・給食等） ＜体育・部活動＞ ① 体力向上のために、本市ではどのようなことを推進しておられますか。 （回答）健康教育課 平成26年度から「熊本市子どもの体づくり推進委員会」を設置し、体力向上推進実証校の取組の成果を踏まえ、新たな体力向上の取組を進めていく予定です。さらに、体力向上の課題をどのように解決していくか、モデル校での検証を進めています。 ② 本市の子どもたちの体力の状況をお知らせください （回答）健康教育課 調査方法が異なる自治体もあり、一概には言えない面もありますが、小中学生ともに持久力が高い傾向にある一方、握力、50M走、立ち幅跳び、ボール投げには課題があるようです。 ③ 社会体育へ移行すれば保護者の負担増が心配です。また外部指導者への助成はありますか。 （回答）健康教育課 小学校の運動部活動については、その意義や役割を踏まえ、関係団体や関係部局と意見交換等を進めているところです。現在のところ外部指導者への助成制度はありません ④ 小学校運動部活動の今後の見通しと、各校の総合運動部移行への進捗状況はいかがでしょうか。 （回答）健康教育課 小学校の運動部活動については、現在、学童期に相応しい運動部活動のあり方を検討しているところです。総合運動部の設置数については、平成27年度は26校、平成28年度は32校と増加傾向にあります。 ⑤ 体力が落ちていると聞きますが、対応策は何かありますか。家庭ですべきことはありますか。 （回答）健康教育課 平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から次のような傾向が見られます。	① 「運動やスポーツが好き」と答えた児童は「きらい」と答えた児童よりも体力の合計点が高く、1週間の総運動時間が長い。 ② 家の人と運動やスポーツについて話す頻度が高い子どもは、頻度が低い子どもに較べて運動時間が長い。 ③ 規則正しい生活習慣が身につけている子どもは、そうでない子どもより体力合計点が高い。 これらのことから、運動やスポーツへの意識を高め、運動時間を長くすることが体力向上につながると考えられますので、ご家庭でもできることからご協力をお願いします。 ⑥ 勝利主義でなく、仲間や先生との人間関係づくりを大切にする部活動の継続展開を願います。今後の展望はいかがでしょうか。 （回答）健康教育課 小学校の運動部活動については、その意義や役割を踏まえ、関係団体や関係部局と意見交換を進めてきました。現在、学童期に相応しい運動部活動のあり方を検討しているところです。今年度中には新しい方向性を示したいと考えております。 ⑦ 顧問の先生への手当導入も、良識内の額であれば理解を得られるのではないのでしょうか。 （回答）教職員課 現在、教員の部活動の顧問としての活動に対しては、次の場合において手当が支給されています。なお、手当額については平成27年4月に増額見直しを行いました。 ① 対外運動競技等引率指導業務 国若しくは地方公共団体等（小・中体連等）が開催する競技会等へ児童・生徒を引率して行う指導業務で、泊を伴うもの又は「週休日」、「休日」等に行う場合 ② 部活動指導業務 学校の管理下において行われる部活動において、児童又は生徒に対する指導業務（あらかじめその部活動の担当とされている場合に限る）で、「週休日」、「休日」等に2時間以上従事したとき ⑧ （プール開放）心肺蘇生法講習会だけでなく、過呼吸発作時の対処法講習会も実施してほしい。 （回答）健康教育課 夏休みのプール開放事業における専属監視員の救命救急講習では、過呼吸発作時の対処法も実施されています。 ⑨ 体力の低下や個人差の大きさが気になります。自信を持ち、体を動かすことが大好きな子どもに。 （回答）健康教育課 平成26年度から「熊本市子どもの体づくり推進委員会」を設置し、体力向上推進実証校の取組の成果を踏まえ、新たな体力向上の取組を広げていく予定です。さらに、体力向上の課題をどのように解決していくか、モデル校での検証を進めています。 →次号へ続く
---	--

